

平成30年度 千葉県立千葉中学校 学校目標及び自己評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート, 保は保護者アンケート, 生は生徒アンケート)	アンケート回答率			自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
					肯定的 回答	否定的 回答	わから ない等		
学校経営	1 教育目標の具現化を目指して、校内組織の運営や教育環境の活用をより効果的に行い、創意工夫に富む学校運営にあたる。	① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。 ② 創設以来の成果と課題を認識し、中高一貫教育推進委員会を核として、千葉高校との指導の接続の在り方を工夫し、中高一貫教育の質の向上に努める。 ③ 保護者・地域へ本校の教育目標や教育活動を発信し、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	① 職員アンケートの結果及び実施状況の把握 ② 職員アンケートの結果 ③ 保護者アンケート、地域懇談会の評価及び開かれた学校づくり委員会の評価の結果	職 ① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。	41.2%	58.8%	0.0%	① 組織をより機能的にする余地があると考える職員が増え、今後も一層の工夫と普段からの教員間の連絡・連携が必要である。 ② 昨年度より始まった「中学校担当者情報交換会」が定着し、主に技能教科での生徒の様子を把握するのに役立っている。その一方で、アンケートの結果からは「中高一貫の特色を生かした教育活動」という点では十分とは言えない。中高一貫の特色を生かすためには、職員の共通理解を十分に図る必要がある。 ③ 今年度は、3年生がボランティア体験の一環として地域の町内会と連携を図り、公園の除草作業や地域の清掃活動等に取り組んだことから、地域との連携についてアンケートの結果にも一定の改善が認められた。千葉県立中央図書館の出張授業や千葉県立中央博物館への校外学習などは例年同様実施されたが、学校周辺地域(文化的施設)での学習機会をさらに充実させる必要があることがわかる。	① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。 ② 昨年度発足した「中高一貫教育推進委員会」を核とした生徒・保護者・職員の、それぞれの立場に応じた具体的な連携の在り方を検討していく。とくに、部活動や学校行事でのより一層の連携を模索する。 ③ 全県から生徒が集まる本校にとっては、かなり難しい課題ではあるが、職場体験・ボランティア体験を通じ、保護者・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。また、学校周辺地域の文化的施設での学習機会を増やし、充実した学習活動が行えるようにする。
				職 ② 高等学校との連携を密に行い、よりよい中高一貫教育の実現に努める。	17.6%	82.4%	0.0%		
				職 ③ 保護者・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	72.2%	27.8%	0.0%		
				生 ② 学校周辺地域(文化的施設)での学習や人々とのふれあい	50.9%	49.1%			
				保 ① 学校は近隣地域との交流等を通して、開かれた学校づくりに努めている。	70.0%	20.0%	10.0%		
				保 ② 保護者への連絡や、保護者面談は適切に行われている。	86.9%	11.7%	1.4%		
学習指導	1 基礎学力の定着を図りつつ、内容濃く水準の高い授業を展開する。 ② 思考を促す課題を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実現する。 ③ 授業研究等を通して常に授業改善を図る。	① 知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業や国内外の研修の改善に努める。 ② 職員、保護者によるアンケートの結果 ③ 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果及び研究授業や研修会等の実施状況	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ④ 生徒の実態に即し知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業を目指す。	77.8%	16.7%	5.6%	① 各教科の学習過程においては、主体的で対話的な深い学びを実現するために、実験・ポスターセッション・寸劇・プレゼンテーション・レポート作成を行うなど、各科目の特性に沿った活動を取り入れている。これらの取り組みによって興味関心を高め、理解の深まりへとつながるよう努めている。ただ、生徒のアンケートの結果からは、授業に積極的に取り組んでいると答えながらも、家庭での学習習慣の定着に課題を感じている生徒が多いためとわかる。 ② 知識の修得のみではなく、グループ活動などの学習形態を工夫したり、話し合い学習などの言語活動を充実させ、修得した知識を活用し思考を重ねる指導を、各科目の特性に応じ、それぞれ実施した。アンケートでは概ね肯定的ではあるが、さらに教科指導の充実を図りたい。 ③ 保護者や小学校の教職員対象の授業参観を年2回行った。5月は3日間、学年毎に実施した。9月については土曜日に行うことにより、より多くの保護者に授業を参観してもらった。また、県内外、また今年度は国外からの視察にも応じ、授業公開を行った。職員アンケートでは、授業研究を通して授業改善を図っていることに肯定的な回答が増えた。	① 生徒の実態に即し知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業をめざしより一層の研鑽を積む。家庭での学習習慣の定着については、担任と各教科担当が連携しながら、継続的に指導に当たっていく。 ② 思考を促す学習課題を工夫し、言語活動を充実させた様々な学習活動を取り入れることで、考える力を育てる授業を行う。 ③ 千葉中学校での教育の柱である「授業」について、職員の共通理解を十分に図りつつ、より一層の授業改善を図る。今年度も土曜日に開催した授業参観と教科別保護者会は好評であったため、来年度もよりよい内容で実施できるよう検討していく。
				生 ① 千葉中の授業は楽しい。	79.7%	19.2%	1.0%		
				生 ② 私は、授業に積極的に取り組んでいる。	83.6%	15.1%	1.3%		
				生 ③ 家庭で、授業の予習・復習に取り組む習慣が身に付いている。	56.5%	38.7%	4.8%		
				保 ⑤ 学校は、揺るぎない学力を基礎として幅広く深い教養を育成する努力をしている。	90.0%	9.0%	0.9%		
				職 ⑤ 思考を促す課題を工夫し、グループ活動等を通して互いの考えを交流することで、考える力を育てる授業を行う。	72.2%	22.2%	5.6%		
				保 ⑩ 授業の方法、教員の教え方について満足している。	81.4%	14.9%	3.6%		
				職 ⑥ 授業研究等を通して常に授業改善を図る。	77.8%	22.2%	0.0%		
				生 ⑦ 千葉中の授業はわかりやすい授業である。	86.9%	11.2%	2.0%		
				保 ⑪ 十分な準備に基づいた、生徒の知的好奇心を喚起する授業が展開されている。	85.1%	11.8%	3.2%		
生徒指導	1 生徒の自主性を育てるとともに、集団の一人としての自覚と責任感を持たせ、他者へ配慮する心と態度を身に付けさせる。 ① ゼミ・生徒会活動を常に、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ⑦ ゼミ・生徒会活動を通し、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。	38.9%	61.1%	0.0%	① 生徒・保護者はゼミ活動や各学校行事に対して概ね肯定的な回答をしている。しかし、職員の「ゼミ・生徒会活動を通しての自主的・積極的姿勢を育成する」という項目では、昨年度に比べ肯定的な回答が大幅に減った。ここ数年で職員が異動により多く入れ替わったことにより、生徒会活動やゼミ活動、また各種行事の進め方を共有しきれなかったところに要因があるのではないかと考えている。 ② 総合的な学習の時間「ゼミおよび千葉中アカデミア」 ③ オリエンテーション合宿(1年)遠足(2・3年) ④ 国内語学研修(3年生のみ) ⑤ 伝統文化学習(2年生のみ)	① ゼミ・生徒会活動や各種行事を更に活性化させるためには、今年度夏季休業中に行った総合学習の研修会や会議の場での話し合いなどの機会を通じ、職員間の一層の研修や共通理解が必要である。
				生 ② 総合的な学習の時間「ゼミおよび千葉中アカデミア」	80.1%	19.9%			
				生 ③ オリエンテーション合宿(1年)遠足(2・3年)	91.4%	8.6%			
				生 ④ 国内語学研修(3年生のみ)	96.1%	3.9%			
				生 ⑤ 伝統文化学習(2年生のみ)	96.1%	3.9%			
				生 ⑥ 伝統文化学習(2年生のみ)	96.1%	3.9%			

生徒指導				生 2 ⑨	文化祭	96.5%	3.5%				
				生 2 ⑩	飛龍祭（体育祭・球技大会）	82.7%	17.3%				
				生 2 ⑪	合唱コンクール（合唱祭）	88.3%	11.7%				
				保 1 ⑧	生徒は、学校生活に満足し、授業や行事に積極的に参加している。	91.9%	7.2%			0.9%	
				保 1 ⑫	学校は、授業や学校行事を効果的・計画的に進める努力をしている。	91.9%	6.8%			1.4%	
				職 ⑧	リーダーとして必要な基本的生活態度や規範意識等を身に付けさせるとともに、健全な批判精神を養う。	27.8%	72.2%			0.0%	② 「基本的生活習慣や規範意識等を身につけさせる」という項目については、職員アンケート結果では大変低い数値であり、生徒の回答した比較的高い数値との隔たりは大きい。この隔たりも改善していく必要がある。清掃活動や教室の美化活動については、改善の余地があると答えた生徒が増えた。
				生 ⑥	先生は、生徒の自主性、自律性を育てる努力をしている。	80.4%	13.9%			5.7%	
				生 ⑩	あいさつや時間を守るなど基本的生活習慣や、マナーが身につくようになってきている。	84.0%	14.7%			1.3%	
				生 ⑪	清掃活動や教室の美化に積極的に取り組んでいる。	67.5%	28.1%			4.3%	
				保 ⑬	学校は、生徒の基本的生活習慣や、マナー等について、その確立に努めている。	86.5%	10.4%			3.2%	
職 ⑨	リーダーとして必要な基本的生活態度や規範意識等を身に付けさせるとともに、健全な批判精神を養う。	27.8%	72.2%	0.0%							
生 2 ①	友だちとのふれあい	92.6%	7.4%	③ 生徒は友だちとのふれあいに約90%の生徒が満足と答えているものの、「自他を互いに認め合うとともに、能動的なフォローアップを育成する」項目については、前年に比べ職員の肯定的な回答が減り、約30%と大変低い数値である。多くの職員が課題であると感じている。							
保 ⑥	学校は、他人のいたみのわかる、うるおいに満ちた人間性を育成する努力をしている。	73.0%	20.3%		6.8%						
キャリア教育	1 本校のキャリア教育のあり方について共通理解を図り、キャリア教育の一層の充実を目指す。	① 本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ⑩	本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。	27.8%	50.0%	22.2%	① 本校のキャリア教育のあり方については、職員のとらえ方は様々である。職員アンケートの肯定的回答は約30%と大変低く、職員の多くが不十分であると考えている。		
				保 ⑦	学校は、生徒の社会貢献の志を育み、自己を確立する基盤を育成する努力をしている。	84.5%	10.0%	5.5%			
				職 ⑪	近隣地域との交流を通して、社会の一員であることの理解を深めさせる。	72.2%	27.8%	0.0%			
				生 1 ⑫	近隣の地域をはじめ社会に目を向けることができる。	47.6%	45.0%	7.4%			
				生 2 ③	職場体験（2年生のみ）	85.5%	14.5%				
				生 2 ④	夏季ボランティア（3年生のみ）	88.2%	11.8%				
				保 2 ③	職場体験（2年生のみ）	85.9%	14.1%				
				保 2 ④	夏季ボランティア（3年生のみ）	88.9%	11.1%				
				職 ⑫	社会人講演会・職場体験・ボランティア等を通して、勤労観・職業観を深められるようにする。	55.6%	38.9%	5.6%		③ 1学年の「ことばの授業」では読売新聞の記者に指導いただき、保護者の方々へのインタビューを実施した。また、2学年の職場体験や3学年のボランティア活動においては、地域の方々との交流を図ることができた。しかし、アンケートの結果では、社会人講演会や職場体験・ボランティアについては、改善の余地があると答えた職員が増えた。	
				保 2 ⑨	大学の先生や企業の方などの講師による授業や体験学習	74.1%	25.9%				
生 2 ②	総合的な学習の時間「社会人講演会」	66.7%	33.3%								
生 2 ⑨	大学の先生や企業の方などの講師による授業や体験学習	72.6%	27.4%								
特色ある活動	1 総合学習のゼミのまとめである「千葉中アカデミア」を充実させる。 2 3年間の総まとめとなる卒論を完成させる。	① 3年間を見通したテーマと研究方法を設定させ、継続的な学習支援を行う。	① 全体発表会の実施とその内容の評価 ② 各生徒の研究についての生徒の自己評価及び顧問の評価の結果						① 総合学習での研究を1年間とし、「千葉中アカデミア」に向けてじっくり準備がなされている。これによって、生徒は調べ学習からレベルアップし、卒論へ向けての研究を続けている。しかし、生徒の中には温度差があり、研究を深められる生徒とそうではない生徒に二分されているのが現状であり、対策が必要である。		
										① 昨年度より夏休みに総合学習のゼミに関する職員研修を実施し、指導方法についてなどを共有した。今後も、今年度の成果と課題を整理し、計画的・継続的に指導に当たる。	